「月刊経理ウーマン」2021年12月号には こんな記事が掲載されています！

皆さん、こんにちは。編集長の天野恵実子です。今回のDMをご覧いただいてありがとうございます。本誌「月刊経理ウーマン」の創刊は今から25年前の1996年4月のことです。当時私は別な出版社で経理・税務の雑誌を編集していたのですが、「経理や税金の記事は難しいなあ…」「もう少しビギナー経理でも理解できるようにやさしく解説できないのかなあ…」と常々疑問に思っていました。そこで**税務や社会保険についてビギナーの経理・税務・総務担当の方でも理解できるよう、できるだけ分かりやすく解説することをコンセプトに創刊されたのが「月刊経理ウーマン」なのです。**創刊当時は、難しい専門的な知識を分かりやすく執筆いただける税理士・社会保険労務士・弁護士の先生方を必死に探したものです。そして創刊からあっという間に25年が過ぎましたが、おかげさまで現在、全国4万人の経理総務ご担当者にご愛読をいただいています。

さて、その「月刊経理ウーマン」2021年12月号の特集企画では、**「固定費の『たな卸』―ズバリここが着眼点だ!!」**を掲載しています。昨年から続く新型コロナ禍で売上や利益が減少した企業は少なくありません。その一方で固定費についてはあまり減っていないのが実情ではないでしょうか。人件費や家賃、リース料、通信費、光熱費、消耗品費、手数料等々の固定費は見直さない限り一定の額が文字通り固定されて出ていきます。また、徐々に増えていく傾向にあるのも固定費の特徴です。

コロナ禍のいまこそ固定費を見直し、その削減を図ってはいかがでしょうか。本特集では固定費の「見直し・たな卸」の着眼点を徹底解説しています。ぜひ参考にしてください！

特集 コロナ禍のいまこそ無駄な経費がないか見直そう！

固定費の「たな卸」 ―ズバリここが着眼点だ!!

売上があってもなくてもかかる経費が固定費です。この固定費が増えると、損益分岐点が上がり利益が出にくい体質になってしまいます。そうならないためにも、**経理が経費をコントロールして、固定費の増加を極力防ぐことが大切です。**これは意識してやっていかないと、なかなかできることではありません。それは、固定費は放っておけば、どんどん増えていく傾向があるからです。

固定費はその名の通り固定するものですから、いったん発生するとそれが毎月継続していきます。さらに固定費は、自然には減らない、という性質があります。誰かが意識してストップさせない限り、ずっと継続していきます。自動引き落としや自動更新は、手間がかからず便利ですが、まさに自動的に固定費が継続していく仕組みなのです。取引相手にとっては売上ですから、できるだけ継続して欲しいと思っており、様々な工夫をしてくるでしょう。それを分かった上で、サービスを受ける側は気をつけておかないといけません。

固定費は気がつかないうちに増えていくものだからこそ固定費の増加に常に気をつけることが重要であり、定期的なたな卸が必要なのです。それを誰かが意識してやらなければいけない、とすれば正に経理担当の皆さんが主導してやるべきことではないでしょうか？

本特集では以下の4つのLESSONにわけて、固定費の「たな卸」の方法や着眼点を徹底解説しています。

LESSON1 いまこそ「固定費」の見直しに着手しよう

コロナ禍のいまのような時代こそ「固定費」の見直しが必要な理由や、「固定費のたな卸」に果たすべき経理の役割について解説しています。

LESSON2 「固定費のたな卸」―こんな経費を見直そう

具体的にどのような経費を、どのような観点から見直していけばよいか、勘定科目別にその着眼点をアドバイスしています。

LESSON3 「固定費のたな卸」―このように進めよう

定期的に固定費をたな卸して、必要のなくなったものは意識して減らしていくための具体的な方法を解説しています。

LESSON4 「たな卸」をするのは固定費だけではないことを知っておく

固定費のたな卸をして経費最小を実現するには、固定費を直接減らすことだけではないこと。固定費が増加する原因を正す方法についてアドバイスしています。